

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 10 月 29 日（木）14：00～15：24

場 所：滝下会館

出席者：6 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町長：他の会場では、整形外科の午後診療や、皮膚科と泌尿器科が週 1 日の出張医なので、常勤医師の配置などの要望が出ている。一方で、12 の診療科目の維持について、今後、病院経営が難しくなることも予想されるので、病院間で診療科目の連携も考えるべきではないかといった、診療科目を縮小していくような意見も出ている。栗山赤十字病院とも協議しながら検討していきたいと考えている。

町民：栗山赤十字病院はとても不便な病院。そもそも受付が 2 つあるのが不便。受付から診察する所までの距離が遠い。他の病院は、受付したあと診療する場所のすぐ隣に診察室がある。受付から歩かされるだけでも、行きたくなくなる。

町長：総合受付はどこの病院にもあるが、たしかに診察まで距離はある。

町民：札幌の病院にも行っているが、受付のすぐ隣に診察室があった。受付から２階まで連れていくのは大変。

町民：札幌圏の大きな病院は、受付から診察室までの移動距離は短い。患者のことを考えるのであれば、移動距離は短くするべき。カルテの移動なども距離が長いと、まとめて事務が運んだりするので、会計なども時間がかかることになる。病院の経営自体にも影響してくる。

町長：検討委員会の中で、検討していく。

町長：病床数も実際に稼働しているのが 100 床程度。医療需要推計でいくと、今後、人口減少などもあり 100 床程度で問題ないと考えている。療養病床などは、ダウンサイジングしたとしても、ある程度の数は確保してもらいたいといった要望が出ている。病床数の内訳や国の補助などは、専門家などの意見なども踏まえて検討していきたい。また、建設場所は、別の場所に移設するとなると解体費 6 億円を負担しなければならない。栗山赤十字病院に行くためには、町営バスなどを活用するなどしていくと思う。栗山駅や角田付近に作ってはどうかといった意見もあるが、今は現地建て替えが望ましいと考えている。

町民：建て替えの工事中は、病院はどうなるのか。

町長：工事完了後に、既存の建物を解体するので、患者さんの負担はない。

町民：設計はこれからだと思うが、病院の大きさなどはどうなるのか。平屋のような感じになるのか。

町長：設計はこれからになる。今の建物は駐車場が狭い。栗山赤十字病院の裏の使っていない建物を解体して、そこに建て替えをする。また、人工透析病棟がまだ新しいので、建て替えの時には有効活用したいと考えている。だいたい 3 階建てになると思う。

町民：人間ドックを専門にできるところがあると健康志向の人は集まるのではないかな。

町長：今も一応人間ドックは受けられる。

町民：栗山赤十字病院では検査できない項目もあると思う。

町長：検診なども考えていく。

町民：人間ドックもわざわざ札幌まで行っている人は多い。栗山赤十字病院できちんと人間ドックを受けられるようになれば、医療点数も高くなり病院の収益も上がると思う。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：いま滝下から高校に通うのは、町営バスで行けるのか。

教育長：現状としては、通えない。今後、検討していかなければならない。

町民：ほかの地区に魅力を感じて、親御さんが駅まで送っているのが現状。

町長：将来に向けて、栗山高校をどう魅力ある学校にしていくかを議論していかなければならない。普通科となにか特色のある学科にするなど、いろいろな意見を取り入れていきたい。

町長：女子硬式野球部が全国に約 40 校、道内では私立の高校で新陽と駒大苫小牧の 2 校しかない。プロ野球の女子チームを作る話もある。北海道日本ハムファイターズの栗山監督との連携などもあるので、そういったことも考えていきたい。視察した高校も、同じように生徒数の減少から生徒を確保するための取り組みとして考えていっている。

町民：クラブ活動も大事だし、町としても何がいいのかを考えていってほしい。

町民：国は、デジタル庁を作ろうとしている、インターネットなどを活用した学科も考えていか

なければならい。

教育長：これから、通信を使ったさまざまなことが求められていく。ICTに関わることはどうだろうといったことも考えている。コンピュータの「京」を作ったのも栗山出身の人。そういった人との連携も考えていきたい。どういったものができるか意見をまとめている。

町民：光回線のことだが、このエリアは市外局番が 85 局なのだが、川端地区との連携になるのか。

総務課主幹：由仁町も光回線の開通を検討しているので、並行して行っていく。

町長：栗山赤十字病院のコロナ検査のことで情報提供がある。

日赤改築室長：11 月 9 日から、建物右手にプレハブを設置し、発熱外来を開設した。午前中に電話で予約をし、午後からの診察となる。PCR 検査自体はできないが、検体を採取して、検査に出すことができる。2 日から 5 日くらいで検査結果が分かる。また、唾液採取して抗体を調べる抗原検査も行える。1 時間くらいで検査結果が出る。発熱などの症状があつて、検査を受ける場合は保険が適用される。自分で検査をする場合は、自己負担になるので PCR 検査で 2 万円、抗原検査は 7500 円かかる。65 歳以上の方が検査をする場合の補助制度を検討している。

町民：コロナの感染者の受け入れはしているのか。

町長：今は日赤では受け入れしていないが、厚生労働省の方で受け入れできるような体制をとることを検討している。現状としては、岩見沢市立病院が感染者を受け入れる外来を設けているので、そちらで対応してもらう。

町民：熱があるとそちらに受診するようになるのか。

日赤改築室長：町広報の折り込みにも書かれているが、そのような対応になる。

15：24 終了